

令和6（2024）年度 家庭教育オピニオンリーダー研修①、 家庭教育支援プログラム指導者研修① 実施報告

実施日：令和6（2024）年6月20日（木）

第1回目は、「家庭教育オピニオンリーダー研修」、「家庭教育支援プログラム指導者研修」を合同で実施し、受講者は、対面型又はオンライン型による方法のいずれかを選択して受講しました。

○ 説明「本県の家庭教育支援について」 栃木県教育委員会事務局生涯学習課 社会教育主事 佐藤 正明

前半は、近年の社会の変化に伴い生じてきた家庭教育・子育て上の課題や、それらの解決に向けた家庭教育支援の必要性等についての確認がありました。また、本県の家庭教育をめぐる状況についての説明もありました。

後半は、本県の家庭教育支援施策及び家庭教育支援事業、家庭教育オピニオンリーダーの活動に関する説明、研修修了者の活動の様子についての紹介がありました。受講者は、過去に研修を修了した方々が各市町において地域に根ざした家庭教育を支援する活動を継続して行っていることなどについて学びました。



○ 説明「参加型学習と家庭教育支援プログラムとは」 総合教育センター職員

参加型学習である家庭教育支援プログラムの活用によって参加者に期待される効果や、よりよい学びの場とするためのファシリテーターの役割、家庭教育支援プログラムの種類や基本構成などについて、説明がありました。受講者は、保護者同士がコミュニケーションを大切にしながら学び合い気付きを得ることができる、参加型学習の意義について知ることができました。

○ 講話「家庭教育の現状と課題、及びその方策について」 宇都宮共和大学子ども生活学部 教授 杉本 太平 氏

前半は、育児不安感やメディア依存、コロナ禍での新たな課題や日本の子育て支援の今後の方向性などについて話がありました。特に、母親の育児不安感については、夫側の困難感と育児関与、睡眠との関連、人間関係力、親子関係の形成不全が深く関わっているとの説明がありました。

後半は、カウンセリングについて演習を交えながら説明がありました。話を聞く際には、共感的理解が必要であること、理解した内容のフィードバックが重要であることなど、具体的な事例を挙げながら分かりやすく話されました。

講話終了後の講師への質問やアンケートから、受講者が講話を通してこれまでの自身の家庭教育支援に関連する取組を振り返り、今後取り組んでいきたい家庭教育支援に関わる活動のイメージを思い描くことができた様子が伺えました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・家庭教育支援に参加することにより、不安を抱える御家庭の方々が安心して子育てできるような手助けができればと考えています。
- ・初対面の方とのコミュニケーションはとても緊張しました。何かを話すというのは、とても勇気のいることです。相談に来る親たちの気持ちもこんな感じなのですね。現在の仕事に深く関わることもありましたので、生かしていきたいと思いました。
- ・内接・接在の関わりの原理をしっかり落としこみ、他者視点で考察しながらよりよい関係性を構築できるように勉強していきたいと思います。
- ・新しい視点や考え方を知るきっかけになったので、たくさんの人の意見を聞く場は大切だと改めて感じました。子どもとの関わりや親支援、5つの関わりの原理をしっかり理解し、今の活動に生かしていきたいです。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp